

2010年度事業計画進捗状況

(1) 当該年度の主な事業の概要

主な事業の目標・計画

高等教育機関としての質向上を目指して：「学びの共同体」形成

わたしたちの課題は、本学の教育特色を再確認し、それを深め、広め、そして実践していくことである。このために、人事体制を強化し、本学の建学の精神の根幹をなすキリスト教の意味を学生たちに伝え、人生の意味や生き方を考える支援をするキャンパスミニストリーセンターに新たに副主事2名を配置した。

また、本学の伝統であり、特色でもある食育を強化するため食堂委員会を食育委員会と改め、学生の健康的な生活を支援するための体制造りを行っている。さらに、教職員研修会においては、食育と労作教育を取り上げた。今後とも本学の特色である全人教育を推進するための不断の努力を行う決意である

特色を生かし、個性を明確化することと共に教育、研究、管理運営がバランス良く行われているか、また学生のキャンパスライフが充実しているかななどを点検する必要がある。自己点検評価は、質向上のために欠かせない。自己点検評価の充実も今年度の目標の一つである。自己点検の項目に担当者を配し、これを行っている。

A. 大学：看護学部看護学科

2009年度よりロマリンダ大学など北米から3名の教授を迎えて授業が始まり、学生の積極的参加を求める授業は、その内容においても、また方法においても新鮮さを学生そして教員に与える特色ある授業が展開されている。通訳、翻訳などの作業は困難ではあったが、昨年の経験を踏まえて、資料、プレゼンテーションについてもさらに学生たちの必要に応えた内容となっている。

また、後期からは本格的に実習がスタートした。その理念を共有する東京衛生病院と神戸アドベンチスト病院での実習である。三病院が掲げるその使命を担う看護師の育成を目標とした教育であり、系列と連携をとりながら実習が進んでいる。本年度は、編入学生の受入も始まる。短大、専門学校などの看護師養成機関から、今年度は6名の学生が編入し学びをスタートしている。

B. 短期大学

1) 専攻科：地域看護学専攻

看護師教育を受けた後の保健師養成コースは今年度限りでその歴史を閉じることになる。専攻科は、地域の保健所などで実習を行い、地域の健康を支える保健師養成を行っている。実習場確保が非常に困難であるが、長年地域で保健師として活躍してきた教員が多く、実習場の理解と協力が得られて感謝である。地域から卒後の募集もあり地域からの信頼度は増加していると思われる。

2) 英語コミュニケーション学科

世界的な経済状況の低迷は、英語コミュニケーション学科の学生募集にも大きな影響を与えている。特に韓国からの留学生の減少は著しい。一方、中国、ネパールなどからも留学生を迎え、学科は国際色を増している。学科の大きな課題は、学生募集である。留学生確保のため、新たに台湾の系列高校を訪問し、来年度の留学生、そして国際交流プログラムの実施に向けた相談が始まっている。

また、留学希望者のために単位互換が円滑に行われるよう、北米の系列大学と交渉を開始した。

2010年度から定員減を行い、現在募集定員は20名である。英語コミュニケーション学科の将来に係わる検討が特別委員会で行われている。今年度は地域のために夜間講座もスタートしている。

C. カレッジ

1) 神学科

神学科では、今年度教団の協力の下に「信徒伝道師養成講座」をスタートした。20名以上の受講者があり、90分の講座6コマを一月に2かい開講している。また、初等教育および中等教育の教職員を対象とした

神学講座「サマースクール」を夏に開催し、教会や系列校に貢献することができた。

2) キリスト教教育学科

今年度の入学予定者は1名である。在籍者も1名であり、計2名と大変小規模な学科である。幼小で三育教育を展開するための教員養成を行っている。学科の努力により、来年度の希望者が増加している。